

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①

～A園の保育方針転換期における保育の現状と

「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

Efforts Aimed at "Child-Centered"

by Childcare Workers Part1:

Focusing on the Current State of Childcare
at the Turning Point of Childcare Policy
and the Concept of "Child-Centered" Childcare
in Nursery School "A"

千葉直紀

CHIBA Naoki

キーワード：保育方針転換期 保育の現状 子どもの主体

1. はじめに

昨今の保育を取り巻く情勢においては、平成27年の子ども・子育て支援新制度、平成29年告示の幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園保育教育要領の三法同時改訂（以下三法同時改訂と記す）、さらには新型コロナウイルス（COVID-19）の蔓延や急速なICT化などにより目まぐるしい変化を余儀なくされている。三法同時改訂においては幼児期の終わりまで育ってほしい10の姿などが示されたことによって保育現場は混乱の一途を辿っている。

特に現場においては主体性という言葉がひとり歩きしている現状も見て取れる。『保育所保育指針』においては以前から主体性という言葉を用いており、主体性という用語の頻出度は、平成20年告示では11件⁽¹⁾、平成29年告示では12件⁽²⁾と主体性の頻出度や重要性に関してはそれほど大きな変化を遂げているとは言えないのである。このことから三法同時改訂のみならず、目まぐるしい保育情勢や教育観の変遷も大きく影響しているといえる。特に小学校以上の学校教育においても小1プロブレムの問題から始まり、従来通りの教育では日常を賄いきれない現

状が起きてきている。ひとこと添えておくと、この小1プロブレムだが、小学校に入学したばかりの子どもを小学校の体制に馴染めないからといって、馴染めない子どもに対して“プロブレム（問題）”として指摘している教育体制こそ“プロブレム（問題）”であることは言わずもがなである。

このような学校教育への円滑な接続という三法同時改訂によって強調されたことや保育・教育の変革とこれまで保育の中で培ってきたことが齟齬をきたし、保育現場が振り回されているという現状は往々にして起きているのである。特に長年保育現場で勤めている保育者はこれまで積み重ねてきた保育観を崩す必要があるのかどうかということに戸惑いを覚えたり、新任の保育者はまだ保育観が育っていなかったりする段階から大きな変革の渦中に送り出され、保育という営みそのものが、より一層つかみにくいものとして存在している。

そこで、本研究においては、目まぐるしい情勢の変化のさなかにある保育現場において今何が問題であるのかという視座に立ち、変化のさなかにある保育の現状や保育者が抱えている問題を明らかにし、保育者が子どもの主体性について自分なりに捉え、保育観を再構築していくプロセスを明らかにしていきたい。

2. 目的

本研究においては、現場保育者が混沌としたこの社会情勢や保育情勢の中で、自分たちの保育を見直しながら保育実践を研鑽していくプロセスを追っていくこととする。今回は、その取り組みの第1弾である。ここでは、特に昨今、重きを置かれている「子ども主体の保育」をどうすすめていくかという視点を中心に、保育情勢の変化から保育の方針転換を行っている保育現場における現状把握と子ども主体の保育に対する捉えについて明らかにしていきたい。本研究において、保育者が捉える保育における悩みや戸惑いを明らかにしていくことにより、保育者の保育実践を停滞化させている要素を明らかにしていく。また、研究者が保育現場に介入することによって一方的に情報を与えて保育方法の変遷を迫る方法ではなく、保育者自身が考え、気づき、自らの手で保育実践を積み重ねていくようなプロセスを大切にすすめていくこととする。

3. 方法

本研究においては、A保育園における保育者11名（経験年数2年目～40年目）にインタビュー調査を行った。インタビューは、正職、パート職員を含むクラス担当をしている保育者を対象に行った。インタビューは半構造化面接法を用いて行い、以下の7つの質問を元にそれぞれの内容について深めていく形でインタビューを行った。インタビューは1人26分35秒～48分22秒と1人につき約30分程度の時間を用いて行った。インタビュー期間2021年5月上旬～下旬の期間で行い、逐語録の作成を5月～8月の期間を使って行った。11名へのインタビュー合計時間は6時間24分54秒であった。インタビューは調査園の園長室（個室）をお借りして、勤務に差し支えない保育体制を確保していただきながら、数日間に分けて調査を行った。半構造化面接

の質問内容については以下に示した通りである。

〈半構造化面接における質問項目〉

- a) 普段の保育の中で意識していることはありますか？
- b) 子どもの発達や育ちを理解するためにしていることはありますか？
- c) 同僚との関わりの中で意識していることはありますか？
- d) 子どもの主体性について考えていることを自由に述べてください。
- e) 保護者との関わりの中で意識していることはありますか？
- f) 日々の日誌などの保育記録は保育実践にどう活かされていますか？
- g) 保育の中で大変と感じることはありますか？

先行研究では、熊田ら（2020）が「教育・保育者が記録するという営みは、単なる報告事項というのではなく、教育・保育者の姿勢を描きだし、自身の教育・保育を理解することにつながる」ことを指摘し、保育実践を同僚と語りことや主観を加えて記録をしていくことで子ども理解につながることを示している⁽³⁾。そのことから半構造化面接では「子ども理解」「同僚との関わり」「記録と保育実践との関連」を取り上げている。また、千葉(2017)においても、保育をすすめていく上での重要な要素として「保護者との関わり」⁽⁴⁾を示唆していることから「保護者」を質問項目として加え、「子ども主体」の保育とのそれぞれの要素同士の関連についても検証していくこととする。

4. 倫理的配慮

本研究を行うにあたり、上田女子短期大学研究倫理委員会において、「人を対象とする研究」倫理審査の承認を得た上で調査を行っている。また、調査を行う段階においては、調査協力者に本研究内容に関する意義・目的等を説明した上で、同意が得られる場合は署名・捺印をいただいた。インタビュー調査はボイスレコーダー（ICD-UX533F SONY CORP）1台を用いて録音の許可を得た上で、筆者以外録音データを聞いたり逐語録を見たりすることは出来ないことをお伝えした。また、本研究以外の用途で使用されないことなどの個人情報の保護についても確認を行っている。インタビュー調査の途中で辞退についても何ら問題はないことをお伝えし、本調査が個人の不利益につながることはないことを確認した上で行った。また、データの管理については研究室で厳重に保管し、分析を行う際のPCは研究室のパソコンとノートパソコンの計2台とし、パスワードで管理された状態で、筆者のみが取り扱うことが出来るように配慮を行った。

5. 結果

調査結果を表1～表7にまとめ、グラウンデッドセオリーアプローチの手法を用いながら客観的なデータとして示していきたい。

表1 「普段保育の中で意識していること」に対する回答

普段の保育の中で意識していること				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	B 8	そんなにやりなさいっていう無理強いはしないようにっていうのは今のところ心掛けているところです。	子どもの力に合わせた関わり	子ども主体の保育
2	C 5	〇〇歳児なので自分で考えて見通しを持って生活を出来るように環境を工夫したりとか、あまり声をかけすぎないで見守れるように、見守って自分で気づけるような保育	年齢や発達に即したねらいの設定	
3	C 15	子どもが自分で考えて動けるようにっていう環境の作り方とか生活の流れの作り方	保育方法	
4	E 16	自分もイライラしちゃうタイプだし、せかせかしちゃうし、それで子どもに求めることが多くって	自己の性格と保育	自己の感情のコントロール
5	F 14	ついせっかちな性格が出て、時間なっちゃうよ〜とかなんかつい言うてしまうことが多くて	自己の性格と保育	
6	G 16	赤ちゃんは触れ合ったりしてあげることが大事な〜と思って、抱っこをしたりとか一緒に遊んでいても手を繋いであげるとか、触れ合うことは大事	スキンシップ	必要な関わりと葛藤
7	G 24	一人ひとりと触れ合ってあげたいなっていう気持ちはあるんですけど、なかなかそれが出来る状態ではないっていうのが現状	保育の願いと葛藤	
8	H 14	ケガが無いようにっていうのが今一番子どもたち一人一人がけがなく、一日楽しかったっていつも満足して帰るのが日々の目標で	怪我無く満足	養護
9	J 48	子どもたちがゆったりとした生活をするようにするには、保育士の対応と遊びと生活の流れをどういう風にしたらいのかなっていうことは大事にしています。	ゆったり過ごすための関わり	
10	H 27	一緒に子どもたちと歌ってロズさんでくれたりすると、何かすごく嬉しかったりするし、おうちでもよく歌ってくれます	自分の得意分野を活かした保育	自己の特徴を活かした保育
11	I 14	今年すごい特になんですけど月齢が遅くて、1月以降生まれっていうか早生まれが半分いるんですよね。	クラスの状況と保育	生活実態に即した保育
12	D 24	基本的な生活習慣をまず子どもたちに覚えて欲しい	生活習慣	

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①
 ～A園の保育方針転換期における保育の現状と「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

13	I 33	去年すごい噛みつきがあったクラスなのでなんでもかなと思って、でも、噛んでいる人よりやられている方がやっぱり手を出していたりってことがあるのでもう両方2人とも親御さん忙しいと思うのでなるべくなんかスキンシップ取って	クラスの出来事と対応	
14	I 39	結局子どもが怒られちゃうとイライラしちゃうから、お母さんイライラさせちゃうと子どもは当たられちゃうったりすることもあると思うので、親御さんも楽しく保育園に来させてもらえるように	保護者を含めた保育展開	保護者対応
15	M22	困っている子や言えないでいる子のことを気にかけてあげられるような保育をしたい	一人ひとりへの対応	個々への配慮

表1の「普段の保育の中で意識していること」に関する回答を見てみると、現在A園において取り組んでいる「子ども主体の保育」について言及している保育者が多く見られた。保育者の語りからも「やりなさいっていう無理強いはしないようにっていうのは今のところ心掛けている」や「子どもが自分で考えて動けるようになっていう環境の作り方とか生活の流れの作り方」という視点が園の方針転換期の保育者には意識として常にあるようである。また、「今年すごい特になんですけど月齢が遅くて、1月以降生まれっていうか早生まれが半分いるんですよ」というように5月という新しいクラス作りが始まって1か月の時期ということもあり、保育者の願いを前面に出した取り組みではなく、現在のクラスの子どもの様子や出来事を大切に保育を作り出そうと意識する「生活実態に即した保育」という点が重要視されているようだった。また、保育者によっては、「自分もイライラしちゃうタイプだし、せかせかしちゃうし、それで子どもに求めることが多くって」のように、自分自身の性格的特徴を自己認識しながら保育において最善を尽くすことが出来るように俯瞰的に保育実践を結び付けている「自己の感情のコントロール」という側面が見られた。「自己の感情のコントロール」においても保育者の語りからは、「(以前は) 決まっている時は全然迷うことなくって、じゃこれが終わったらご飯だし、みんなで食べてみんなで(中略)雑巾がけして寝よ。みたいな感じだったんでルーティン的なところに関しては迷いはなかったんですけど」という視点も語られ、園の「子どもの主体」を考えた保育方針への転換と「自己の感情のコントロール」の意識との関連についても見て取ることができる。

表2 「子どもの発達や育ちを理解するためにしていること」に対する回答

子どもの発達や育ちを理解するためにしていること				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	A24	他の先生にも共有しあって、(中略)で、何か自分が思ったことを他の先生にも言って何だろう。共通理解っていうか、何かそうやってやっていっている。	他者との共有による理解	同僚と関わりによる理解

2	D38	具体的な保育の中で分からないこととかは先輩の保育士の方とかにお話聞きながらこういうときどうしてましたか～なんていう風にお話を伺いながらやらせてもらうことが多い	先輩からの助言による理解	
3	D42	同じクラスの先生からもうかがいますし、あとは去年度〇〇歳児を持っていた先生であつたりとか、あとは去年の今のクラスの子たちを見ていた先生たちであるとか、あとは、主任の先生とかにも伺うことがあります。	同僚のヒントからの理解	
4	J 59	一緒に組んでいる先生と今日こんなことあつたつていう、その子どもの行動をお互いに報告し合う	クラス間での報告による理解	
5	J 62	他の先生の考えとか色んな保育の…保育観があるので、それを話したことで、じゃこういう風にしてみようよつていう違う意見が教えてもらえることが出来る	同僚からの新しい保育観を取り入れた理解	
6	B17	月の保育雑誌みたいなのは購入したりとか園にあるものは読んでいて、それを参考にしながら	保育書籍を元にした理解	現状と書籍
7	C19	自分で興味があるなんか運動あそびとかリトミックとか～そういう本は読んだりします	色々な分野の本を元にした理解	
8	E 48	一番は現場の子どもたちを見るのが一番かなつて私は思っているので、クラスの子たちの様子をとにかくよく見ようかな～とは思っています。	現場の子ども姿から学ぶ	
9	E51	話すことば？言葉つていうか内容？こういう伝え方するんだな～とかの言葉遣いとかもそうですけど～お友達同士こういう話すんだな～とか	言葉や友だちとの関わりからの理解	
10	E52	こういうことに興味があるんだな～とかそこはまあ、子どもを見て～、で、その保育雑誌とか見て、当てはまっているな～とか	現場の子どもと書籍を結び付けて理解	
11	F 36	普段のあそびの中で観察はしているんですけども。そうですね。出来るだけ、こう記録とまでは行かないんですけど、この子出来なかつたけど出来るようになったとか、そういうのも自分の中で把握して	記録やメモを元にした理解	現状を把握するための記録
12	F 60	(メモを) 取っておくとちょっと時間が空いても、あつときこれだけ出来た、ここまで出来たけどこんなに出来るようになっているとか、つていう発見も自分でもあるので	一人ひとりの現状理解	
13	G58	自分の経験と子育てをしてきた中でとかは基準にしてとつてはあつたことある	自己の経験を基にした理解	これまでの経験

14	H44	その子に合わせて、まずは全体で言って通っているかとかそういうところを1人ずつ見て確認して分からない子にはもう一度ちょっとこう伝えたりとか	全体と個の比較から理解	全体から個を見る
15	J54	運動遊びをみんなでやっていくとみんなの力がだぶぶそこで見えてくるので、	全体活動を通しての理解	
16	H46	私持ちあがりりで去年2歳児で見ていた子の同じクラスなのでちょっと何となくこの子はこういうことが苦手とかこの子ははさみが苦手とか一応少し理解している	持ち上がりによる継続した関わりによる理解	継続と繰り返し
17	H48	言葉がけとかその子の行動とかを注意してみても分からなかったりするときはもう一度確認したり	繰り返しの理解	

表2の「子どもの発達や育ちを理解するためにしていること」に対する回答を見ていきたい。ここでは、発達や育ちを理解するためには、「日々の記録」が重要な要素となるだろうと仮説を立てた。しかし、実際は「**具体的な保育の中で分からないこととかは先輩の保育士の方とかにお話聞きながらこういうときどうしましたか～なんていう風にお話を伺いながらやらせてもらうことが多い**」というように、「同僚との関わり」の中から子どもを理解しているという回答が多く見られた。さらに、「**こういうことに興味があるんだな～とかそこはまあ、子どもを見て～、で、その保育雑誌とか見て、当てはまっているな～とか**」というように目の前の子どもの姿と書籍とを照らし合わせながら子ども理解へつなげているという視点が示された。これらのことから、目の前の子どもや子ども同士のやり取りを同僚間での対話や相談などを通して理解し、保育実践につなげているといえる。このことは、「保育者同士の関係性」が保育現場において非常に大きいものであることがいえると同時に、「子ども理解」において非常に重要な点であることが示された。また記録に関しては、日誌等による記録ではなく個人的に行っているメモ等にて子ども理解につなげていることが分かる。しかし、「**(メモを)取っておくとちょっと時間が空いても、あのときこれだけ出来た、ここまで出来たけどこんなに出来るようになっているとか、っていう発見も自分でもあるので**」という語りからは、記録を行うことによって、保育者が自身の捉えから、子ども一人ひとりを丁寧に理解する要素となりうるということがいえる。

表3 「同僚との関わりの中で意識していること」に対する回答

同僚との関わりの中で意識していること				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	A32	私的には言葉遣いは意識しているな～って思って、ま～話す中では～しますっていう…返事だったりとか	先輩への言葉遣い	礼儀
2	A35	こういうことしますっていう内容とかも話したりとか共通理解ができるように相談もしています。	活動内容の共有	子どもの姿の共有

3	B27	子どもの様子とかお話ししたりとか、割とお話はしっかり出来るようには心がけています。	子どもの様子の共有	(プラス側面・マイナス側面)
4	J141	アリさんいたね～。すごい持てるんだね～って言ったら出来る出来る！って出来たことをその子がすごい喜んでた	子どもの喜びの共有	
5	H72	他のクラスの子とトラブルになった時とかもこうなんですけど、うちのクラスの子がこういう風に言っているけど、私はこういう対応しちゃったんですけどどうですか？	トラブル時の対応の共有	
6	B33	なんていうんですか？プライベートなこともま～、お話しつつ仲良く出来るように	プライベートな話	職場内の意図的な関係調整
7	C43	園長先生とか主任に言いづらいようなこととかがあ～、先生の中であつたら～、でもそれをこう私には言いやすいから、立場が何にもないからあ～～伝えてくれたりする姿もあるので～	自己のポジションにおける役割	
8	C62	割と心配性な、いろんなことに気が付けるんですけど心配性なところもある先生なので報告をきちんと、連絡と報告をきちんとするようにする	保育者の特徴に合わせた関わり方	
9	J126	複数担任の時にギスギスしていると子どもとかクラス作りは絶対できないし、子どもは成長しないっていうのが私のポリシーなので	担任間の雰囲気作り	
10	E94	お昼寝前の紙芝居読んでいただいたりとか絵本見たりとかはやっていたらいい	業務の分担	
11	E104	自分で悩んでも解決策が出てこなくて、それじゃ良くないのかなとか思うんですけど、経験年数長い先輩方に聞くとそうなんだ～とか、なるので	悩みの解決方法	相談して悩みを解決
12	E88	危ないからっていうことを自分は言いたいけど、周りはどう思っているのかなとか、そういうことを意識しているというか	同僚の保育観を意識	同僚の保育観を意識
13	E89	あの先生は、見守っている。じゃ、もうちょっと見守ってみようとか、逆に自分は大丈夫って思っていることを、他の先生はそれを危ないとかっていうと、あ、そうか危ないかな～という感じ	同僚の保育観を感じて保育方法を変更	
14	J104	私は同僚の先生の保育観は否定しません	保育観を否定しない	保育観の尊重
15	J119	若い先生たちがやっぱり新鮮ですよ。	経験の短い保育者から学ぶ	
16	E104	日頃から同僚の方と、あ～だよ～ねこうだよ～ね～っていうことって少ないのかな～。	同僚と関わる機会の少なさ	学び合う機会の欠如

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①
 ～A園の保育方針転換期における保育の現状と「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

17	E117	後輩も隣のクラスで、〇〇組さんすすめてたりするんですけど、なかなか見る機会もなく	職員間の保育を見合う機会の少なさ	短いコミュニケーションの頻度
18	E81	あ～ほとんどお昼寝中ですかね～、あと朝ノート見せながらこうでこうでこんなみたいです～とか～その時間とか合間をぬって～話したり	隙間時間でのコミュニケーション	
19	H75	帰り際とか（中略）一緒に掃除しながらとか、そういう時にこうこういうことがあったけどどうですか？とかあとま～昼寝の時間か～、にたまたま教材庫とかで会った先生に	掃除しながらのコミュニケーション	
20	E71	子どもの様子もそうですし業務連絡うちから今日延長なしですよ〇ちゃん休みですとかもそうですけど何でも相談して	小さな情報の共有	

表3の「同僚との関わりの中で意識していること」に対する回答について見ていきたい。同僚との関わりにおいては、「アリさんいたね～。すごい持ってるんだね～って言ったら出来る出来る！って出来たことをその子がすごい喜んでいた」のように「子どもの姿の共有」を意識しており、このことは、先述した子ども理解のために、同僚の力を借りているという姿とも重なる。また、同僚間においては自分の経験年数などにより、「でもそれをこう私には言いやすいから、立場が何にもないからあの～伝えてくれたりする姿もあるので～」というように置かれている立場等も意識しながら「職場内における意図的な関係調整」を行いながら日々保育をすすめていることが分かる。また、日々の業務や勤務体系等も影響していると考えられるが「後輩も隣のクラスで、〇〇組さんすすめてたりするんですけど、なかなか見る機会もなく」のように「学び合う機会の欠如」もあげられ、同僚間でゆっくりとした時間を設けての学び合いが不足しているとの回答も得られた。また、「保育観」という視点も保育実践に影響しており「あの先生は、見守っている。じゃ、もうちょっと見守ってみようとか」というように、保育観がそれぞれに異なることからくる保育実践時の迷いも同僚間の関わりや「子ども主体」という保育方針の転換から生じてくることがいえる。更に、日々忙しい保育現場であるため、「帰り際とか（中略）一緒に掃除しながらとか、そういう時にこうこういうことがあったけどどうですか？とかあとま～昼寝の時間か～、にたまたま教材庫とかで会った先生に」というような「短いコミュニケーションの頻度」が同僚間の関わりにおいて重要であることが示唆されている。

表4 「子どもの主体性について考えていることを自由に述べてください」に対する回答

子どもの主体性について考えていることを自由に述べてください				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	B68	新入園児の子で、ずっとその帽子とリュックと全部背負っていたみたいなのがいて～前だったら、取りなさい脱ぎなさいって言って（中略）もうそれつけてたいならつけていいよ～って言って	子どもと相談しながら出来る安心感	強制の無い安心感

2	B79	ずっと手を洗わせていいのかな～とか。ま～おやつもあるからとか気をそらすのはいいのかな～とか。おやつを食べよう～とかっていうのはいいのかな～	子どもの注意を引く事と主体	判断の難しさ
3	B74	わがままみたいなのと～見極めみたいなのは難しいのかな～	ワガママと主体	
4	A101	一番の主体の完成は何なんだろう…区切って、食べたい子は食べてみたい～のが正解なのかな～、それすらもちょっと分からない	主体性のつかめなさ	
5	D92	じゃちょっと時間ずらしてやってみようかとかじゃもうちょっと長く遊んでみようかっていう風にやってみてはいるんですけど	保育の施行錯誤	
6	D110	子どもの声をひろって保育をするっていうところは出来ていければ、やっていけたらいいな～	子どもの声と主体	
7	A98	3人で分担するのも主体ではあるけれども保育士が足りないからちょっとそれは出来ない	保育体制と主体	
8	C81	子どもがこうやりたいって言ったことが、実現されるような環境が整っていることがまず第1だと思うので	主体と環境	
9	C89	就学っていうのもあるので、なんかこう好き放題やるのとはまた違うのかな～とか	年齢に応じた主体	子どもの特徴に応じた主体性
10	E143	行動がのんびりでもま～、そういう子もいるよね～	子どもの特性と主体性	
11	D117	極端な話なんですけど、お昼食べなくていいの～？ってなったら、ま～主体性だからこっちはいいやってなってしまえば、それまでかもしれないんですけど	主要な生活と主体性	生活面と主体性
12	G88	小さいうちに寝たい時に寝て食べたいときに食べてみたい何となくそういうイメージがあるんですけどやっぱりちょっと生活リズムとかそういうものとかが大事じゃないですか。	生活リズムと主体性	
13	G96	午前中たっぷり寝たらやっぱり午後ってなかなか午睡が出来ず、夕方眠くなっちゃたりとかそういうこともあったりするし、そういう中でおうちに帰ったらお母さん大変な時間に寝ないな～	家庭との連続性と主体性	
14	I94	小さい子だと主体に任せていると一日が終わらない子もいるので、はははは。そこが難しいなっていう	1日の流れと主体性	
15	H124	〇〇組さんはまだ並ぶっていうこともままならない間になんか自由なところでやったときに（体操を）じゃこれで急に並びましょうって言われた時に、どうなんだろう	規範と主体性	

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①
 ～A園の保育方針転換期における保育の現状と「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

16	J 218	人間ってお互いに助け合って生きていかなきゃいけないので、自分だけ良ければいいっていうのは違うのかなって	個と集団の 主体性	
17	E 144	そういう方向に自分の気持ちをシフトチェンジしていかないと、それこそさっき言ったようなガミガミ怒ったりとか気持ちの余裕がなくなっちゃうし、主体性にもなんないのかな～と思って悩み中	自己の気持ち のシフトチェ ンジの必要性	これまでの 保育・教育 からの変換
18	G 80	自分もそういう中で育ってきたし、自分の子どもにもそうしてきたところがあるので、	自己の育ちや 受けた教育と 主体性	
19	J 192	本当に小さな子どもの関わりだったんですけど、子どもの考えを聞いていくっていうことって物凄く大事なんだなって。本当に目立った子のあそびを取りあげるんじゃなくて、本当にちょっとと友だちと関われない、自分の意見もなかなか言えないっていう子のちょっとしたようなことを大事にしていかないと、クラスって子ども同士のつながりって出来ない	小さな 関わりからの 主体性	大きな変革 を伴わない
20	D 97	小学生とか幼稚園生もいるんですけどただけでもそういうところからも活かせるところはあるのかな～なんていう風には思いながら	園以外での 子ども同士の 関わりから 得るヒント	保育場面 以外から 得るもの

表4の「子どもの主体性について考えていることを自由に述べてください」に対する回答においては、A園においては、1年程前からこれまでの保育のすすめ方から「子ども主体」を意識した方向に変革したため、「強制の無い安心感」を感じている保育者もいる。その一方で、ワガママとの見極めなどの「判断の難しさ」を感じている保育者も多い。その中でも「**食べたいときに食べてみたい何となくそういうイメージがあるんですけど、やっぱりちょっと生活リズムとかそういうものが大事じゃないですか**」や「**〇〇組さんはまだ並ぶってこともままならない間になんか自由なところでやったときに(体操を)じゃこれで急に並びましょうって言われた時に、どうなんだろ**」などという語りがあった。そのことは、子ども主体の保育をどうすすめていくか、特に「生活リズム」や「個と集団」との兼ね合いを含めた「生活面と主体性」という視点が、保育者にとって非常に迷いが大きい点であることが示された。また、「**自分もそういう(きちんとしっかりとけじめをつけるような)中で育ってきたし、自分の子どもにもそうしてきたところがあるので**」という語りからは、自分が育ててもらった育て方や受けてきた教育とは異なる関わりをするという行為の難しさや自己の保育観をシフトチェンジしていかなければならない点においても迷いや方向性が見えなさをを感じていることが示されている。

表5 「保護者との関わりの中で意識していること」に対する回答

保護者との関わりの中で意識していること				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	B93	子どもの様子は出来たこととか良かったこととかお話ししたりとか。笑顔で対応が出来るようにしています。	良いことを伝える	頻回なコミュニケーションの必要性
2	B109	普段からお話して～それこそその～おうちでの様子雑談でも出来ていると～あの～、何だろうな～困ったこと。例えばこういう風にしてほしいな～っていうお願いとか～ちょっとこういうことがありました～ってことも～、ちょっとお伝えしやすい	雑談の重要	
3	C119	ちょっとしたところで信頼関係を築けてくると思うので、子どものことを少しでもいいから伝えたり	子どものことを伝える	
4	D146	こういうちっちゃい発見してる〇〇ちゃんがすごく素敵でしたよ～とかっていう感じで保護者の方に園での様子を知ってもらって安心してもらえるといいな～	子どもの小さな成長の共有	
5	E217	朝とかちょっとした時間にコミュニケーション取っていたのが、今は大ごと、大ごとっていうか、そういう時にしか行かれなくてすごく嫌だなって、変わったかな	日々の伝え合いの重要性	
6	A106	やっぱりコロナとかで～、話す機会が無くて（中略）延長の子がほとんどで保護者に会う機会がなかなかなくて、それもま～去年、一昨年とは全然違うことで～、全然保護者との信頼関係が出来ていない。	信頼関係の作りにくさ	コロナ禍での保護者対応の困難さ
7	B95	園舎に入ってきてあの～顔を見てお話出来る機会が本当に、それこそ毎日朝と帰り～っていうのがあったのが～今は朝はもう本当に入ってこないの～、朝は会えないし～帰りは週1回会えるか会えないか	会う機会の減少	
8	C131	ケガしちゃったときとか伝えづらいことを言う時とかにもやっぱりなんか、いつも来てくれるっていうか話しかけてくれるような人だったら受け入れられるけど、やなときだけ出てくる	ケガなどマイナス面を伝えにくい	
9	E203	本当に些細なこと、様子とかも今までは言えていたんですけど、それがその機会がちょっとやっぱりなくなっちゃたので、それが無く寂しい、	些細なことが伝えられない	
10	G121	ノートで字に書くだけっていうのは気持ちも伝わらないし言いたいこともうまく字に書くと相手もどうとらえるかっていうのも、書き方とかもすごく悩んだりする	ノートでの感情の伝わりにくさ	

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①
 ～A園の保育方針転換期における保育の現状と「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

11	G130	お母さんたち本当に申し訳ないですけど入園式の時に顔を拝見しただけではっきりこのお母さんっていうのも今マスクもしているしなかなかこうお顔も覚えられないような	マスクの状態による 関係性の 築きにくさ	
12	I150	やっぱりコロナの中入園してきた子なので、そういう人も違うかなって、その前からいた人と、バタバタの中入園してきた、子どもは慣れるけど、お母さんって周りともコミュニケーション取れないし、	保護者同士の コミュニケーション 構築の 希薄さ	
13	C125	もうちょっと保護者に向けてはなんだろう子どもの様子が伝わるように何かを変えなきゃいけないなって感じています。	現状への危 機感	新たな関係 構築の模索
14	D171	こう何十年前も前みたいな感じとかいうか気軽に、先生これ何とかがあったよ～とかこれあったよ～ぐらいじゃないけれど、こうなんだろうな～保護者の方にとっても保育園の先生に相談したりとか話しやすいとかっていう風な、親しみやすさがあつたらいいな～	親しみを 持った 関係性への 希望	
15	B105	去年は週1回会うっていうのもなくて～、あの本当に会えないこと、会えない期間があったので、そうそれはちょっといけないからっていう風に今年から送り出しを順番にやろうっていう風変わったので	コロナ禍で の工夫	コロナ禍だ からこそ 気を付けて いる点
16	F120	伝え方とかを意識しているかな～っていう部分がありますね。例えば、あまり良くないことを伝えるときとかは、ストレートに言われると保護者の方も傷ついたりとか	伝え方を 意識する	
17	F126	食い違ってしまうこともあるので、保護者と関わる前に子どもともちゃんと向き合って、その背景とかをきちんと理解した上で	食い違わ ないように子 どもを見る	
18	G147	小さいからこそ伝えなくちゃいけないこともあるだろうし	年齢による 伝えること の重要度	個別配慮の 困難さ
19	E210	A君とかは本当にもう気になっているんですけど、全然ですね。私もA君(の気になる様子を連絡ノートに)ちょっと書いてなくて1か月通して気になる姿もあるので、ちょっと伝えていかなくちゃなどは思うんですけど	気になるお 子さん のご家庭ほ ど、 ノートの 返事がない	
20	H144	4時でピッと帰ってしまうので延長で使っているお子さんのおうちなんてほとんど会えなかったりとか朝もどちらかと言ったら私は9時なのでみんな来てしまっていて	パート勤務 の時間では 保護者に 会えない	勤務体制・ 保育体制に よる保護者 との接点の

21	I 130	朝早くから遅くまでの子が多いのであんまりコミュニケーションも取りづらいのかな～	延長保育利用の多さ	なさ
22	I 133	ただ、持ち物もめっちゃくちゃな人が多くて、そうすると、子どもが迷惑かかっちゃう。	持ち物の伝達	
23	J 143	とりあえずノートで今は伝えるしかないのだから今日あったことを、全員には書けないからあれなんですけど何か今日気になったことはノートでしっかりお伝えするようになってことで。	今日の出来事は今日伝えたい	伝える技術・方法の 少なさ
24	E180	年上の保護者の方がほとんどなのですごく緊張しますし、なかなかうまく伝えられないなって思うことはあるんです	伝わらなさ	

表5の「保護者との関わりの中で意識していること」に対する回答においては、保護者との関わりでは、日々コミュニケーションをとる中で子どもの成長や出来事を伝えたいという強い思いがある一方でコロナ禍となってしまい、保護者の出入りを制限せざるを得ないことからケガや子どものマイナスな姿が伝えにくくなってしまっている現状が明らかとなった。保育者からも「雑談でも出来ていると～あの～、何だろうな～困ったこと。例えばこういう風にしてほしいな～っていうお願いとか～ちょっとこういうことがありました～ってことも～、ちょっとお伝えしやすい」という普段からの「雑談の重要性」が語られた。また、「私もA君（の気になる様子を連絡ノートに）ちょっと書いてなくて1か月通して気になる姿もあるので、ちょっと伝えていかなくちやなどは思うんですけど」というように発達に特性の見られるお子さんについても対応の困難さを増しているようである。「入園式の時にお顔を拝見しただけで、はっきりこのお母さんっていうのも今マスクもしているし、なかなかこうお顔も覚えられないような」というように、保護者の送迎のタイミングや保育者の勤務体制によっては入園式以来お会いしていないという保護者の方もいるという「コロナ禍での保護者対応の困難さ」が示された。また、マスク姿であることから顔もなかなか覚えられない現状もあり、非常に関係が作りにくい大変さがあることが示された。また、「やっぱコロナの中入園してきた子なので、そういう人も違うかなって、その前からいた人と、バタバタの中入園してきた、子どもは慣れるけど、お母さんって周りともコミュニケーション取れないし」とあるようにコロナ禍でお子さんを預け始めたご家庭においては、保育者とも、他の保護者ともコミュニケーションが取れないことが日常となっており、新たな保護者対応の必要性も考えていかなければならない現状についても示唆された。

表6 「日々の日誌などの保育記録は保育実践にどう活かされているか」に対する回答

日々の日誌などの保育記録は保育実践にどう活かされているか				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	B120	月案は月の初めに立てるので～、そこでちょっと担任同士で話し合って～じゃこの月は制作やりたいね～とか運動会とか行事にむけてこういうことやりたいね～っていうのを考えられるので、そこに合わせて週案を立てていくっていうような感じですかね～	月案を基にした打合せ	計画の共有
2	F163	今日こういうことがあってっていう話をして、こういう対応したんだけどちょっとこれが反省なんですよみたいな話だとか、自分の中で、ちょっとこうすれば良かったかなって思ってたっていうことは話したりすることもあります。	記録を基に気になった点を共有	クラス間で反省を共有
	I157	反省ではここダメだったなと思うと次こういう風にすればいいなっていうのは、割と担任同士では話したり	反省を共有する	
	I166	(個人月案は)あ～ここクリア出来ていないねっ、じゃちょっと手変えてみる?っていうことも話し合えるので	個人月案と実践との結びつき	
	I155	なんか立てた方より、反省の方が活かされているんだなっていうのは思う。	計画よりも反省が活きる	
3	C159	週案を立てたことに対する反省をかく欄がちょっと少なくて	振り返りが充分でない	記録と実践の結びつかなさ
4	C163	この子に対してはこういう支援をしたかったとかこの子に対してはあのこういうところが伸びてきているっていうのがちょっとこう見えづらい。	成長の見えにくさ	
5	D185	こういうところで躓いている子どもが、こういう対応をしたらこう戻れたとかこういう対応をしたらその後気持ちよく過ごせたとかっていうところが書いてあると…	次につながる記録書式の必要性	
6	E227	週案の横の反省を書くんですけど、でも何か自分の反省よりかは、子どものその時の様子になっちゃうので、あんまり活かされていないのかなって思います。	自己の反省が書けない	
7	E232	保育の実践っていうかになっているのかなっていう気はまだしていないっていうか。実践はされていないのかな	保育実践との結びつきの弱さ	
13	K168	呼吸の検査で時間は分かるので、そんなに何通りもなくなくて良かったのかなっていう感じはしましたけど、	記録の重複	書式の工夫の必要性
14	K173	小さい子起きちゃったりするので、ちょっとそれがね～大変だったり。	記録の量と午睡の関係	

15	B127	庭遊びをこうやって毎日、未満児さんと散歩も行かないから庭遊び～みたいなのが多くなると～ま～書く環境設定と子どもの姿と援助することみたいなのってそんなに変わらない。	週案の欄の工夫の必要性	
16	H171	新入園児さんなんてなるとちょっと私も分からなかったりするんですけど、ちょっと顔はね～分からなくてもお名前だけ見てこういうお子さんだっということもちょっと少しずつ知ってね。土曜日とかは合同になるので、	各クラスの週案を回覧	全体把握

表6の「日々の日誌などの保育記録は保育実践にどう活かされているか」に対する回答については、「月案は月の初めに立てるので、そこでちょっと担任同士で話し合っで～じゃこの月は制作やりたいね～とか運動会とか行事にむけてこういうことやりたいね～」というように「計画の共有」を行うツールとして活用されている様子がある。また、「(個人月案は)あ～ここクリア出来ていないねっ、じゃちょっと手変えてみる？っていうことも話し合えるので」というように反省の段階で記録を基に「クラス間で反省を共有」するためのツールとして活用されていることが示された。しかし、「この子に対してはこういう支援をしたかったとかこの子に対してはあのこういうところが伸びてきているっていうのがちょっとこう見えづらい」という意見や「毎日、未満児さんと散歩も行かないから庭遊び～みたいなのが多くなると～ま～書く環境設定と子どもの姿と援助することみたいなのってそんなに変わらない」のように記録物の性質によっては、「記録と実践の結びつかなさ」を感じており、保育者の記録の必要性から書いているものであるというよりは、書かなければいけない書式であるから書いているという部分もある。多くの時間を費やしながら書いている記録物であるが、現状において保育者が書式変更の必要性を感じてはいるものの、実際は記録物が「週案の横の反省を書くんですけど、でも何か自分の反省よりかは、子どものその時の様子になっちゃうので、あんまり活かされていないのかなって思います」というように子どもの成長理解や自らの保育実践には活かされにくいという点が示唆された。

表7 「保育の中で大変(難しい)と感じること」に対する回答

保育の中で大変(難しい)と感じること				
番号	行番号	ローデータ	コード	カテゴリー
1	A186	手洗うよ～とかだったり、手洗うじゃないですか？手洗ってで～で、その子は自分でタオルをかけた、で、その時パッと取っちゃったんですよ。(中略)もう戻してもいいよ～っていうんですけど、もうやだやだやだ～みたいなの。	子どもの自己主張への対応	保育実践に関する悩み
2	B178	やっぱなんか自分の中でこう進め方っていうのもいまいちこう定まっていけないものもあって、どういうのをやっていけば良いかな～っていうのだった	保育のすすめ方	

保育者による「子ども主体」を目指した取り組み その①
 ～A園の保育方針転換期における保育の現状と「子ども主体」の保育の捉えに着目して～

		りとか		
3	D225	初歩的などころでやり方が分からないっていうか、で、本当にこれで合っているのかな～って思いながらやるとこうより、こう、何だろう安定してない保育じゃないけれども	自分の保育が正しいか	
4	F168	主体的な保育をしていく上で、大変というか方向性が、ちょっといまいちどうしたらいいか分からないのが大変というかちょっと、はっきりしていけたらもっと仕事しやすいのかな～	保育方針の転換による戸惑い	新しい保育方針への転換と戸惑い
5	K178	なんか自由保育とかするにはちょっと手が足りないような気がします。	保育の転換と体制	
6	C175	支援が必要な子に対して、こうなんだろう支援というかこういうやり方でやっているみたいなのをこう親に伝えるのが難しかったりとかなんかこう少し、何だろう就学とかに向けてもこの子は病院に行っただ方がいいのかな～って	発達に特性がある子と他機関との連携	発達に特性のある子に対する保育のすすめ方
7	E240	発達相談にかかっているお子さんが何人かいたりするので、その対応が	発達に特性がある子への対応	
8	G197	待っててねとか後でね～とかちょっとごめんねとかそういうことが無い日も大事かなって思って。 (中略) それはその子に対してはすごく保育、充実した保育だなとは思う	発達保障と体制	園の仕組み
9	I192	そんなに責めても意味ないって思うけど、ちょっとそこが何かそれは親に対して厳しすぎる	園の仕組みと保護者支援のバランス	
10	J289	保育全体のことを考えると、もっとお互いに認め合える保育を出来たらいいなと思います。	園の雰囲気の上	
11	B161	書類が大変。保育の時間をしてしていると結局さよならして、仕事出来る時間っていうのがすごい限られている。	書類と勤務時間	書類
12	H178	考えながらやってくださっているところに私がどう援助していけばいいのかっていうのを	保育者同士のサポートの加減	自己の役割

表7「保育の中で大変（難しい）と感じること」に対する回答については、大部分が「保育実践に関する悩み」や「新しい保育方針への転換と戸惑い」などの内容となった。「*自分の中でこう進め方っていうのもいまいちこう定まっていけないものもあって、どういうのをやっていけば良いかな～*」という内容や「*本当にこれで合っているのかな～って思いながらやるとこうより、こう、何だろう安定してない保育じゃないけれども*」というような根本的に自己の保育が正しいかどうかという難しさを抱えている言及が見られた。また、「*主体的な保育をしていく上*

で、大変というか方向性が、ちょっといまいちどうしたらいいか分からないのが大変というかちょっと、はっきりしていけたらもっと仕事しやすいのかな〜」や「なんか自由保育とかするにはちょっと手が足りないような気がします」という新しい保育方針への転換期における悩みや難しさを感じているようだった。

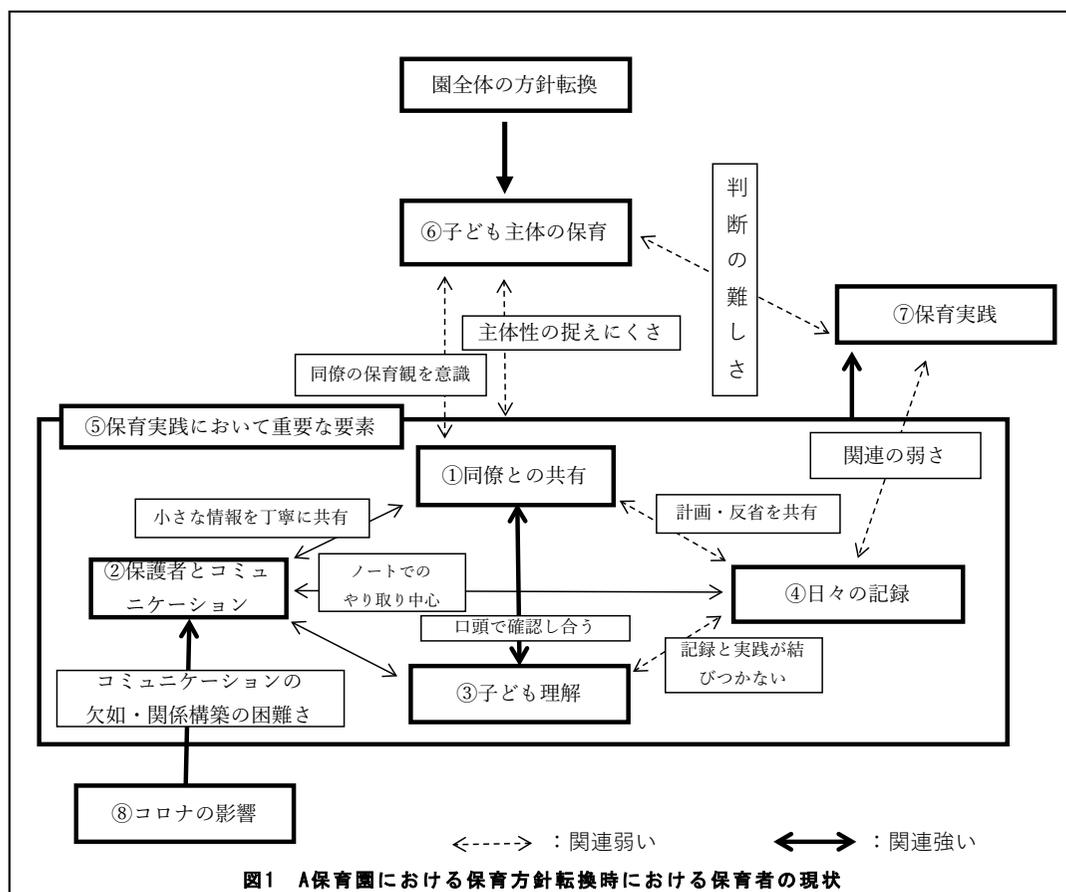
6. まとめ

本研究における半構造化面接からは、大きな概念として①「同僚との共有」②「保護者とのコミュニケーション」③「子ども理解」④「日々の記録」、①～④をまとめた⑤「保育実践において重要な要素」⑥「子ども主体の保育」⑦「保育実践」⑧「コロナの影響」という8つの大きな概念が示された。8つの大きな概念をもとに結果を見ていくと、園の新たな方針転換の状況下においては、その方向性については、理解できてはいるが保育を実践していく上での「判断の難しさ」という観点が示された。また、表3において「学び合う機会の欠如」についての語りもあったように、方針が転換されて新年度を迎えた5月の段階であったことから日々の疑問を話し合う機会は少ない現状も示されている。そのようなことから保育者一人ひとりが実践の時々において迷う場面が多くあるようである。また、迷いが大きいことも作用して「同僚の保育観」も目に入りやすくなり、子ども主体の保育の中で同僚はどのような行動を呈するのかという点を意識していることが示された。しかし、その迷いはこれまでの保育者主導になりがちであった保育を見直そうとする姿勢でもあるといえ、決して保育に悪影響を与えるものではないと考えられる。

また、図1において点線で示した矢印は、お互いの「関連の弱さ」や保育者の迷いが生じている部分を示している。その結果からは第1に①「同僚との共有」③「子ども理解」④「日々の記録」における関連の弱さが挙げられる。園の方針が変わったことから、保育者の意識は変容しようとしているものの、方針だけが先に進んでしまい、①「同僚との共有」③「子ども理解」④「日々の記録」という他の要素が追いついていない現状があることが示されている。このことから「子ども主体」を第一においた①「同僚との共有」③「子ども理解」④「日々の記録」の関連の強化が有効といえる。しかし、③「子ども理解」に関しては「口頭で確認し合う」ことが多く、慌ただしい中でも子ども理解を行おうという習慣が根付いており、その点は方針転換期においても非常に重要な点であるといえる。また、第2として図1における④「日々の記録」と⑦「保育実践」との結びつきが弱いという点があげられる。このことから、③「子ども理解」や⑥「子ども主体の保育」を目指して行ったことを確認できるような「記録」が必要であるといえる。記録物が慣習化されていることは中川ら(2021)が「義務的ではなく、自分の成長や学びにつながる保育記録」⁽⁵⁾の重要性を指摘しているように、真に子ども理解や保育実践に結びついていくような「書式の検討」が望まれる。

また、コロナ禍であるためにコロナ対応に追われ研修の機会も減っている現状もあることから、保育者の迷いや子ども主体の保育を理解するための職員同士の共有や機会も作りにくくなっていることも現状である。つまり、方針を転換しているが、同時多発的に保育の業務等を

見直していく必要が方針転換期においては非常に重要であることが示されたといえる。さらには「コロナの影響」も保護者支援の視点からすると非常に大きな問題であることが示された。表5からも「ケガなどのマイナス面を伝えにくい」「些細なことが伝えられない」というカテゴリーにもあるように、思い描いているような保護者との関わりが出来にくくなってしまっている点においては、慎重に打開策を検討していく必要がある。A園の保育者はその渦中であっても「小さな情報の共有」や「ノートでのやり取り」を心掛けているなど、保育者の日々の努力がうかがえる。方針転換期においては多くの要素において保育者間で確認し合ったり、変革があったりするがコロナ感染症が知らぬ間に保育現場にも日常のすすめにくさという大きな影響を与えていることも同時に示されたといえる。



7. 考察

ここまで、A保育園における保育方針転換期における保育者の現状について述べてきた。本研究においては、転換期においては、保育者の保育実践における「判断の難しさ」が示された。またこのことは意識転換が起こっていることも同時に示されたといえる。方針転換期においては、図1に示した⑤「保育実践において重要な要素」のうち、①「同僚との共有」③「子ども

理解」④「日々の記録」の3つの要素や「日々の記録」と「保育実践」において関連の弱さが示された。このことは、変革期のみならず重要な点であるといえるが、変革期や保育者の迷いが強い時期においては同時に変革していく必要がある点であることもいえる。方針転換期であるからこそ保育者において迷いの強い「子ども主体」という考え方について同僚間で確認し合い、また、③「子ども理解」や⑦「保育実践」においても、実践し記録しまた実践するという循環についても同時に変革していく必要がある。今後は、A園の取り組みについて、①「同僚との共有」③「子ども理解」④「日々の記録」の点に焦点を絞り、保育者自らの気づきにより、保育実践が変革していく展開の様子を明らかにしていきたい。

〈謝辞〉

本研究においてインタビュー調査にご協力いただきましたA園の保育士11名の皆様、またインタビュー調査が滞りなくすすむよう、体制を組んでいただいた園長先生・主任の先生をはじめとする職員の皆様に深く御礼申し上げます。

〈引用文献〉

- (1)木村美幸『保育所保育指針〈平成20年告示〉』株式会社フレーベル館 2008
- (2)木村美幸『保育所保育指針〈平成29年告示〉』株式会社フレーベル館 2017
- (3)熊田 凡子・谷 昌代「現代の教育・保育実践に問うー教育・保育者は何をみるのかー」江戸川大学紀要(30), 2020 pp.65-78
- (4)千葉直紀「保育者の早期離職を抑制する要素の抽出：ベテラン保育者の職業継続の要因から見えてきたもの」小田原短期大学研究紀要(47),2017 pp.129-141
- (5)中川 欣子・塩路 晶子「就学前施設における保育記録のあり方に関する研究：A市保育者のインタビュー分析を手がかりに」鳴門教育大学学校教育研究紀要(35), 2021 pp.101-109